



さっぽろ市
札幌市

札幌市青少年科学館が1日にリニューアルオープンしました。デジタル技術を使った展示物を増やし、冬のスポーツで勝つコツや気象のことなどを楽しみながら学べます。札幌市のこども記者まなっくの2人が早速、取材しました。

「まなっく」は、まなぶんの「まな」と、「行く・書く」に由来する愛称です

こども記者 まなっく 見ぶん 録

ふゆ 冬のスポーツ スケルトンカーリング 映像で体験

青少年科学館がリニューアル 気象模型も

青少年科学館は札幌市の施設で、開館は1981年。約1年半前から休館して、初の大規模改修をしました。約110点の展示物のうち7さんが、2階の「ガイアタワー」を新たに導入しました。

「科学は身近なところにあります。楽しみながら学びましょう」と声をかけました。

2人が選んだのは「スケルトン」。冬のスポーツで、うつぶせの姿勢でそりに乗り、氷でできたコースをすべ

てタイムを競います。コースにはたくさんカーブがありま

す。外側より内側の方がすべ

るきより短くなるため、

選手は内側をすべれるように

そりを動かします。

た。高橋さんは「コツは、

体をかたむけて重心を移動

しながら進むことです」と、

2人に声をかけました。少

でもタイミングがずれると外

側へ行き、スピードも落ちま

す。途中で止まってしまっ

た武隈さんは「意外と難し

い」とくやしそうです。2人

はカーリングも体験しまし

た。

2階には「環境・気象工

リア」もできました。雪のこ

とや、川の水が氷る様子を学

べます。

高橋さんのおすすめは「冬

はどうして寒い？」という

模型です。夏に比べて冬は太

陽が南の低い位置を通るた

め、地面に当たる太陽の光

の強さがちがうことが、模型

の太陽の位置から一目分か

ります。「太陽は、夏は上か

ら、冬は横から地面を照らす

様子を比べることができま

す」と高橋さん。模型は夏至

や冬至の日の出や日没の時間

も示します。堅田さんは「季

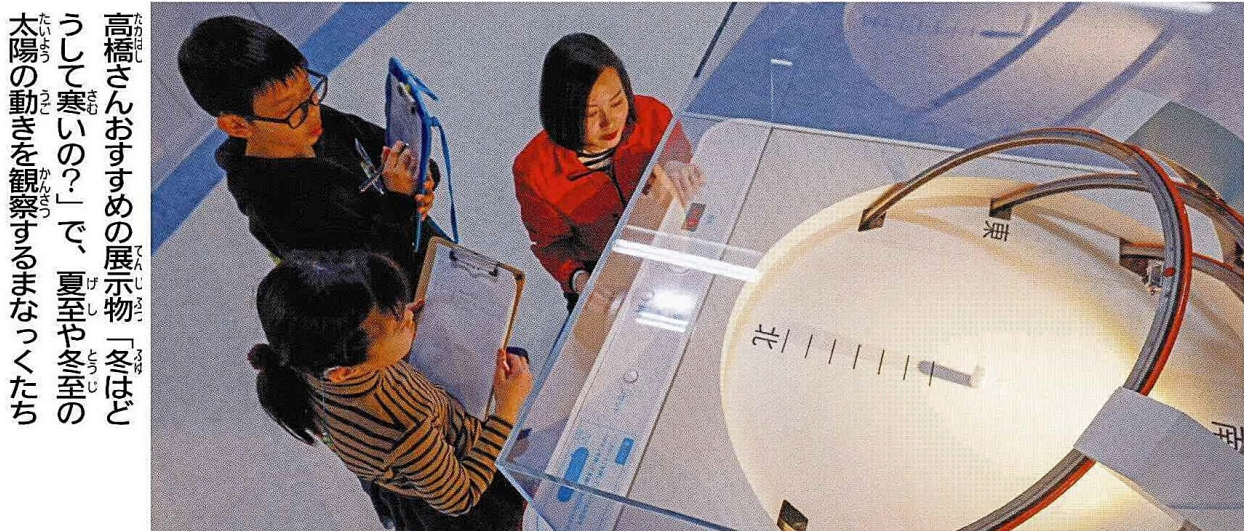
節によって日の出の時間もち

がうんですね」と発見があり

ました。



冬のスポーツ「スケルトン」を体験する堅田柚衣さん（左）と武隈佑哉さん（右）。札幌市青少年科学館の広報高橋志織さん（中央）は「カーブに合

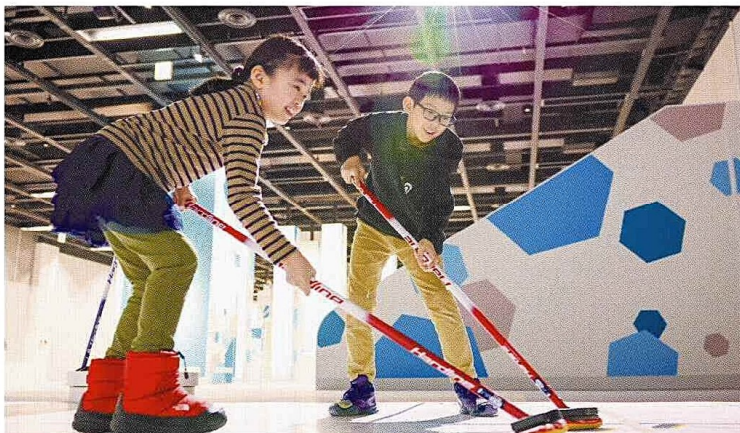


高橋さんおすすめめの展示物「冬はどうして寒い？」で、夏至や冬至の太陽の動きを観察するまなっくたち



⑤小腸には栄養を効率よく吸収できるよう、柔毛（突起）がたくさんあります。体の仕組みをしょうかいする「食べものの旅」ではそうしたことを模型をさわりながら学べます

⑥新しい展示物「カーリング」を体験するまなっくたち。大会などで使う本物のブラシでゆかに映された氷のコートをこすります（いずれも大石祐希さつえい）



3階「テクノロジータウン」には、体の仕組みを学ぶ「ボディアドベンチャー」が登場。高さ2・4メートルの大きな口のオブジェをくぐった後、クイズを解きながら「小腸迷路」や「大腸トンネル」を通ります。武隈さんは「体の不思議をこんな風に学べるのは面白い」と笑顔です。

高橋さんは「展示物を通して、当たり前前に思っているものを科学の視点から見ると大切さを知ってほしい」といいます。2人は「また来たいです」と声をそろえました。